

市町教育委員会における多忙化改善に向けた取組状況（令和元年度・平成30年度）

○取組項目 ・ 具体的な事例

○調査・照会の整理・統合や報告様式の簡略化、電子化を推進している。

- ・ 押印不要な書類等は、全て電子媒体のみの提出とした。（羽咋市 他2市町）
- ・ 中堅教諭等資質向上研修に係る報告書等を整理することで大幅に減らした。（金沢市）
- ・ 国や県の調査物について町教委で回答できるものは回答し、学校に負担をかけないようにしている。（川北町）

○主催する会議や研修会の整理・縮減や参加体制の工夫等を推進している。

- ・ 学校司書研修会やプログラミング教育研修会の内容を精選して、一人あたりの参加回数を縮減した。（加賀市）
- ・ 「学力向上部会と教育課程部会」等、個別で開催していた会議を合同にすることで回数を縮減した。（川北町 他3市町）
- ・ 町主催の研修会については集合型の研修会を減らし、各小中学校へ講師等を派遣することとした。（中能登町）
- ・ 学力向上に関する連絡協議会の報告事項を精選することで、会議時間を30分間縮減した。（宝達志水町）
- ・ (H30)校内研修を充実し、市教育センターの集合型研修を縮減した。（野々市市）
- ・ (H30)一律だった参加人数を学校規模に配慮した参加体制とした。（津幡町 他4市町）

○学校訪問の回数・内容等の見直しを実施している。

市町教委が実施している学校訪問について

- ・ 内容を精選するなどして、訪問回数を縮減した。（珠洲市 他4市町）
- ・ 当日の資料には、既存の資料を活用するなどして、新たな資料作成をなくした。
（能登町 他3市町）
- ・ 訪問時期を学校の要望に合わせ、訪問校数も減らした。（輪島市）

授業研究等の要請訪問について

- ・ 要請訪問を学校規模や研究内容に適した形で行えるように、実施回数を一律とせず学校が判断できるようにした。（小松市 能美市）

○研究指定校の指定校数の縮減や事前案内、成果発表会等の簡素化を図っている。

- ・ スマートスクールネットを活用し、公開授業研究会の案内を行った。（白山市 七尾市）
- ・ 研究指定校の取組内容等を市の共有サーバーに掲載し、教員がそれぞれの端末で閲覧できるようにした。（能美市 金沢市）
- ・ 研究発表会での授業公開の学級数について、一律に全学級公開とせず、学校規模等を考慮して学校が判断することにした。（中能登町）
- ・ (H30)事前案内は町教委が作成し、郵送も行うことで、学校の負担を軽減した。（川北町）

○取組項目 ・ 具体的な事例

○児童生徒が参加する市町教育委員会等が実施する事業・イベントの精選や準備の簡素化を図っている。

- ・市の各課が募集する標語や絵画などを精選した。(かほく市)
- ・「私の主張大会」の全能登大会と市の大会が近い時期であったため、市の大会を廃止し統合した。(七尾市)
- ・郡市開催の音楽会を各市町開催に変更することで、運営や引率等の負担軽減を図った。(津幡町 内灘町 かほく市)
- ・児童会・生徒会活動についての会議への参加を小中学校の代表児童生徒から中学校代表生徒のみとし、時間を大幅に短縮した。(金沢市)
- ・文化祭の出品数の事前報告をやめ、展示方法を簡略化した。(能美市)
- ・相撲教室を集合型から、希望校への講師派遣型に変更した。(小松市)
- ・「話し方大会」の事務局を小学校から市内の公共施設へ移した。(かほく市)
- ・(H30)「学校への配布物等の依頼に対する対応に関する指針」を策定した。(野々市市)
- ・(H30)参加申込の集約を学校から市町教委事務局に変更した。(穴水町 他2市町)

○地域住民等の参画による地域と学校との連携・協働体制づくりを進める。

- ・行事の企画運営や講師派遣依頼、印刷や掲示物、花壇の手入れ等についてコミュニティスクールのコーディネーターを中心に調整・依頼することで、教職員の多忙化改善につながっている。(能美市 かほく市)

○勤務時間外の電話対応については、緊急時の連絡先を確保した上で、一定の時刻以降は留守番電話の設置やメールによる対応等への切り替えを図る。

留守番電話の導入(段階的導入も含む)・・・7市町

- ・留守番電話導入について機会を捉えて周知することで保護者や地域の理解が得られており、教職員の多忙化あるいは多忙感の解消に貢献している。(野々市市)
- ・年度途中から留守番電話対応に切り替えた。保護者の理解もあり、多忙化改善につながっている。(志賀町)

平日夜や土日の緊急時以外の電話連絡を控えてもらうよう依頼

- ・学校だより等で夜間や週休日の電話連絡を控えてもらうよう保護者に依頼したことで、夜間や週休日の電話連絡が減少した。(金沢市)